

ヘチマのお世話



年 組 ()

ユキとナナミは、飼育係だ。ナナミは、毎日昼休みにヘチマの水やりに行っている。

ユキは、「ナナミは、植物のお世話が好きなんだな。」と思っていた。ナナミが毎日やってくれているので、水やりをする必要はなかった。ユキは、ときどきヘチマの様子を見に行き、雑草をぬくなどの作業をしていた。

あるとき、ナナミと仲の良いカエが、こんなことを言ってきた。

「ユキちゃん、飼育係の仕事、ちゃんとやった方がいいよ。

ナナミちゃん、ユキちゃんにおこっていたよ。」

「ええっ？ どうして？」

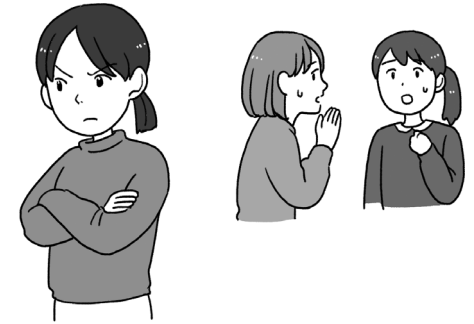
『わたしばかり水やりしている。』って言っていたよ。せめて、『いつもありがとう。』とか、お礼くらい言ったほうがいいんじゃないかな。」

ユキはおどろいた。ナナミが、そんな風に思っていたなんて――。

たしかに、ナナミは毎日水やりをやってくれている。

ナナミに、お礼を言うべきなのだろう。

でも、ユキだって、草むしりをやっている。



そのことを、ナナミは知らないのだ。

おこられるのは、ちがうと思うし、お礼を言おうにもモヤモヤする。気づくと、文句も言いたくなってきた。

ユキは、ナナミにお礼を伝えるべきでしょうか。あなたの考えと理由を書きましょう。

| |
|-------|
| |
| |
| |
| |
| |

話し合ってから考えたことを書きましょう。

| |
|-------|
| |
| |
| |
| |
| |